

対象	中学校 3 学年以上
教科	美術科
該当 単元	中学 3 年 「日本美術の展開と 世界との交流」 (巻末資料)
教科書	日本文教出版等
掲載日	2016. 1. 5. 朝刊 12 版 1 面

# 藤田嗣治が描いた北川民次

## 肖像画 交わる才能

問1：「荒々しいタッチと明るい色彩が特徴的な絵画」は上下どちらの絵画でしょう。



北川民次の肖像画が1933年（上）は1937年（下）

乳白色の裸婦像などで知られる画家藤田嗣治（一八八六～一九六八年）が、愛知県瀬戸市ゆかりの画家北川民次（一九四一～一九九九年）を描いた肖像画二点が同県尾張旭市の北川の遺族宅にあることが分かった。うち一点の油彩は専門家にもほとんど知られておらず、荒々しいタッチと明るい色彩が特徴的だ。調査した名古屋美術館の深谷克典副館長は「二人の画家の親しい交流を示すだけでなく、藤田の創作の幅の広さをうかがわせて大変貴重」と話している。（宮川まどか）

板に油彩した肖像画は縦二下「嗣治謹写」、三七三三秒、横三・六秒。画（昭和十一年十一月二十三日）に「北川民次」、右八日の日付があり、北川がよく出て品があり、この

住んでいた東京で描かれたとみられる。戯画化されており、北川の長男の妻淑子さん（左）によると、北川は「僕はこんな顔をしていかな」と感想を話し、長くアトリエにしまわれていた。もう一点の肖像画は紙に鉛筆・水彩で、三年に北川がいたメキシコで描かれた。縦三五・三秒、横三七秒。藤田の素描のうまさがよく出て品があり、この

問2：藤田嗣治が確立した絵画とはどんな絵画ですか。


### 愛知 民次遺族宅で見つかる



ふじた・つぐはる 東京出身。東京美術学校（現）

絵はハンサムだろう」と北川家の居間に飾られた時期がある。八一年に東京の画廊で展示されるなど、存在は知られていた。

戯画化された絵について淑子さんは「絵の対象を見

きたがわ・たみじ 静岡県島田市生まれ。早稲田大予科を中退して渡米。1921年にメキシコに移り児童美術教育に取り組んだ。43年、愛知県瀬戸市に疎開し、以降、瀬戸の街や人を題材に作品を発表。「洋画の指導と創造的児童教育」で中日文化賞受賞。

東京芸術大 卒業後、1913年にパリへ。「素晴らしき乳白色」と呼ばれる独自の絵画を確立し、時代の花形になった。帰国したが第2次世界大戦中、多数の戦争画を描いた責任を負うように再び離日。55年にフランス国籍を取得した。

二人は、メキシコで美術教育に打ち込んでいた北川を藤田が南北アメリカ歴訪中に訪ねるなどして交流。北川は帰国後に二科会員に推挙されたのは「藤田先生の熱心な口添えがあったからだろう」と随筆に記している。藤田はこのころ既にパリで名声を得ており、一方の北川はやがてメキシコ美術の紹介者となるほか働く民衆や家族を独特のタッチで描いて名を成した。

深谷副館長は「三〇年代は藤田がいろいろな様式を試した時期。モデルが同じ二つの絵を見比べると、そ

問3：二つの肖像画について、画材、描かれた場所について整理しましょう。

	画 材	描 か れ た 場 所
上		
下		

発展：二人の作家の交流をまとめましょう。

北川民次が( )で( )に打ち込んでいた時に( )を歴訪中だった藤田嗣治が訪ねた。